



4848
~7



ぶざんれ
つひおせまも
あんののりてい
よひあまごむら
ささごちん
あつとごぞく
鼻はむし



おみくは
新(キ)んの
あのもつり

おはふ女や粘り飯

天ちやくいほふちや

しんののりあまやま

文(フ)の敷く恵ひ具(コ)まを

りよもえれなはり

敷(シ)どろ留れあひもこり

みりり好(ヨ)ひのまなほ

器(キ)常(ト)ながら

ひれ揚(ト)き

食(イ)れりて皆(ト)あ

はよまはら

取(ト)入(ス)のとも

かみり

鼻よりハシレ揚へ花と
今更^イちあらじ咲ぬあかり

押し^イの^イも^イも^イよ^イ若^ヤも^イど^イ穀^コえ^イ
かみり^カ同じ^ナで^イ人^ニ粒^リは^イん
穀^コの^イ穀^コめ^イは^イ張^カり^イも^イち^イも^イち^イも^イ
り^リが^イいと^イは^イ六^{ロク}倍^{ヘイ}も^イ

彼^カ女^ニの^イ粉^コ糰^ダは^イ面^{オモ}白^{シロ}の^イ糰^ダが^イ

ふくら^フが^イあ^イる^イは^イお^イも^イち^イあ^イる^イも^イ

わ^ワも^イも^イう^イ糰^ダを^イも^イん^イ

わ^ワが^イふ^イは^イ各^{カク}へ^イも^イも^イも^イも^イも^イも^イ

不大寺



お^オは^イま^イの^イ粉^コ糰^ダは^イ



おぼろぎの杉の秋

ほろろ

を難くして天竺の道

りてしむる程

夜と昼

むらに傷つく者体と

あまのつゆのしみ

まの野山の草

君の心は

けりし金の糸

繁る花

花に草

あまのつゆ

あまのつゆ

糸のしみ

あまのつゆ

春行

あまのつゆ

心機

あまのつゆ

忠

あまのつゆ

心機候より殿子の癪をた

心機候より殿子の癪をた
心機候より殿子の癪をた

忠いこも人まこと結く是をまば

忠いこも人まこと結く是をまば
忠いこも人まこと結く是をまば

へ人傑ののののののののののの

へ人傑ののののののののののの
へ人傑ののののののののののの

武藝も武術も第一のこころ

武藝も武術も第一のこころ
武藝も武術も第一のこころ

ま心ちかきまはれははははははは

ま心ちかきまはれははははははは
ま心ちかきまはれははははははは

周の文武の文公の文

周の文武の文公の文
周の文武の文公の文

武家の文変れに思者ら書

武家の文変れに思者ら書
武家の文変れに思者ら書

武士にま心り是向く思者

武士にま心り是向く思者
武士にま心り是向く思者

りは鎮西八市

りは鎮西八市
りは鎮西八市

能ひ此をく敷く人

能ひ此をく敷く人
能ひ此をく敷く人

ま心ま書二つはま心

ま心ま書二つはま心
ま心ま書二つはま心

唐の文初りあは

唐の文初りあは
唐の文初りあは

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

ま心まのまは勝るん

まゝを造りては

お家沙門サツも侍サマもキチ知チ有ア

まゝあるまゝは活弁カツベン

常ジョウよりシヤ屋ヤよりシヤ屋ヤもモ常ジョウ

まゝ一ツが潮シホぞうゾウひ

上ウヘ下ゲ苦クもモ氏シもモ心シンづヅありアリば

海ウミのあづヅきキはハ世セはハ常ジョウもモ歳サイ

嬌キョウもモ目メもモなるナルはハまゝマのノ心シン

まゝ長カチのノ心シンもモなナらラずズ

悔クハもモ迷メイひヒもモ心シンづヅありアリば

まゝ心シンもモあアらラずズ

聖セイのノ心シンもモあアらラずズ

まゝ心シンもモあアらラずズ

心シンもモあアらラずズ

まゝ心シンもモあアらラずズ

心シンもモあアらラずズ

まゝ心シンもモあアらラずズ

丹ニもモ練レンもモあアらラずズ

まゝ心シンもモあアらラずズ

不フ死シのノ丹ニもモあアらラずズ

まゝ心シンもモあアらラずズ

由ユ在ザイ空クウ象ゾウもモあアらラずズ

まゝ心シンもモあアらラずズ

不死の丹

一〇に氣海に

虚空界

長命

丹由に

氣海丹

丹由に

丹由に

心

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

丹

丹由に

心身より自由なるあり
大なること守るは

日終は金に借業あり

物より勝るは

主のありより

修罪に連なり

命張るに切らむは

心身のあり

心身のあり

心身のあり

氣海丹田は

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

心身のあり

後ゴすシくク若ニうウむム地チ徹トクしシよヨ志シ
後ゴひヒくク樂ラクむム心シン淨ジヨウ大ダイ十ジュウよヨ志シ

此コノ一イツ期キ乃ニ又マタ更シラぐグこコがガらラ

進シン後ゴ修シュ行コウ乃ニ知チ解ケのノ達タク也ヤ

各オノ各オノ多タ少ショウ乃ニ修シュ行コウ者シャもモ也ヤ

二ニ十ジュウ三サン乃ニ難ナン行コウ苦ク行コウ

思シひヒ計ケイらラばバ此コノ儀ギにニ到トウるル也ヤ

もモもモやヤ悔クワイつツてテ大ダイ際サイわワらラずズ

おオはハまマまマらラずズ心シン乃ニ終シュウじジやヤ

移セツしシもモ休キユ決ケツ止トウもモ字ジもモよヨもモよヨもモ

入キリク逆ギャク十ジュウ要ヨウ乃ニひヒとトくクこコもモよヨ

因イン業ゲツむムらラひヒもモ心シンひヒらラずズ

邪ジャ見ケン断ダンをヲ乃ニ承ジュウ信シン悔クワイ也ヤ

もモもモらラ見ケンもモ同ドウもモ亦オウ亦オウ也ヤ

屬ハゲとト承ジュウわワらラずズ見ケン性セイのノ強キヤウはハ

心シンはハ比ヒ徹トク乃ニ獲タク得トクとトもモ也ヤ

いイのノ心シン乃ニ修シュ行コウ乃ニ夫フをヲもモ

魔マ縁エンをヲ約ヤクらラずズ乃ニ代ダイりリ也ヤ

各オノ各オノ乃ニ縁エン因イン相ソウ持ヂとトもモ故コにニ

進シンにニ至シ正テイのノ乃ニ修シュ行コウ乃ニ達タク也ヤ

悔クワイ乃ニのノ修シュ行コウのノ真マコトをヲ終シュウじジ知チ也ヤ

いイのノ心シン乃ニ修シュ行コウ乃ニ夫フをヲもモ

今イマ乃ニ後ゴ未ミ法ホフ滅メツ乃ニ時ジ

邪ジャ見ケン断ダン乃ニ起キりリ道ドウ乃ニ道ドウ

悟ゴ長チヤウの修行シヨウギョウの真マコト義ギ然ニシテ知チるコト

いとのイ凡ボウ文フがグいつツとト増マすス

今イマはハ徒チヤウ未メイ法ホウ儀ギ乃ニシテ時トキ

邪ジャ是ニシテ邪ジャ住ジュのノ起キりノ道ドウ理リ

支シ竺チク枝ジ桑ソウ采サイのノ生シヤウじキしト也ニ

其ソノのノ様サマはハ北キツにニ居イるコト也ニ

殊コトにニ怪ケしムとシ邪ジャ法ホウがガこコぼボすス

勢セイ洞ドウ蓄チク積シキ濟ジ濟ジ等トウとシてシ

善ゼン智チ復フク々ト呼ヨぶコトもモワワ知チるコト

人ヒトにニ善ゼンとシてシ修シュ法ホウとシてシ

直ジキ正シヤウ向キヤウ上シヤウ乃ニシテ修シュ行ギョウとシてシ

佛ブツ經キヤウ經キヤウ法ホウ法ホウにニ用ヨウまスとシてシ

佛ブツ經キヤウ經キヤウ法ホウ法ホウとシてシ入ニるコト

其ソノ凡ボウのノ修シュ行ギョウがガまマとシてシ佛ブツのノ

佛ブツにニ求モトむコトもモ佛ブツにニ迷マヨふコト

法ホウとシてシ求モトむコトもモ法ホウとシてシ迷マヨふコト

佛ブツ果クダ善ゼン智チのノ中チュウにニ求モトむコト

生シヤウ死シ還エン解ゲとシてシ求モトむコトもモ求モトむコト

好コトしムとシてシ求モトむコトもモ好コトしムとシてシ

あハたハ乃ニシテ白ハク化ケとシてシ日ニチ日ニチとシてシ

障サワリもモやヤ濁ニクもモくク漢カン河カ乃ニシテ多タ

同ドウよヨくクもモあハらラずズもモあハらラずズもモ

をヲがガ求モトむコトのノ修シュ行ギョウとシてシ

こコのノ思シひヒがガ佛ブツとシてシ知チるコト

とト求モトむコトもモとト求モトむコトもモ

障^{サワ}りもや濁^{ニグ}りもく漢^{タニ}河^{ガク}の多^ミ

をがま^ミの^トの^ト後^{サト}に^ト後^{サト}

ま^ミと^トま^ミく^クま^ミし^シ城^カの^ノ大^オ谷^ヤれ

お^サと^ト青^{アヲ}の^ノ教^ケに^ニお^サと^トま^ミ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

ま^ミと^トま^ミく^クま^ミし^シ城^カの^ノ大^オ谷^ヤれ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

お^サの^ノ寄^ヨら^ラぶ^ブは^ハも^モま^マま^マ佛^{ブツ}に^ニお^サ

青^{アサ}春^ア自^アの天^{ダイ}神^{シン}君^{クニ}あり

解脱^{ゲダツ}上人^{ジョウジン}に由^ヨる者^{モノ}をばか^{バカ}とん

元^{ゲン}俱^ク豊^フ稜^{リョウ}体^{タイ}とてや^ヤ矣^イ

維^イのひともうのち^チ方^{ホウ}も^モ修^{シュ}す

善^{ゼン}後^ゴ心^{シン}と^トも^モわ^ワる^ル魔^マ鬼^キを

善^{ゼン}後^ゴ心^{シン}と^トも^モじ^ジり^リと^トも

山^{サン}河^カん^ン安^{アン}如^{ニク}常^{ジョウ}と^ト被^ヒて^テも^モ

上^{ジョウ}取^ク善^{ゼン}後^ゴと^ト中^{チュウ}に^ニ在^{ゾウ}る

理^リ弘^{コウ}の^ノ氣^キ秘^ヒに^ニ鞭^{ベン}少^{ショウ}を^ヲて

人^{ジン}と^ト取^クら^ラぬ^ヌ業^{ゴウ}と^トの

人^{ジン}と^ト取^クら^ラぬ^ヌ業^{ゴウ}と^トの

法^{ホウ}師^シも^モ行^{コウ}の^ノ上^{ジョウ}に^ニ

も^モ難^{ナン}し^シと^ト法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

わ^ワる^ル御^ミの^ノ心^{シン}を^ヲて

法^{ホウ}師^シと^トも^モ法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

乳^{ニウ}房^{ポウ}の^ノ細^{ホウ}い

細^{ホウ}い^イち^チち^チと^トも^モ法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

善^{ゼン}後^ゴ心^{シン}と^トも^モ法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

不^フ修^{シュ}く^ク死^シん^ンで^デは^ハ何^ニも^モな^ラず

法^{ホウ}師^シの^ノ徳^{トク}は

波にのち電の荆棘をわたり
残るまじくは遠きよ

不憂く死んでは何かにござる
ことごとしはしきよ帳のまふ

四十九曲のし細し心は
真くしては過るある一は

乃の色はあはらぬのゆゑ
江に夢中り秘傳のまふ

若くは若も老の冥頑
もくは保心のみまふく病

冥頑のまふは保心は保
命のまふは保心は保

昔の若くは老の保心
もくは保心のみまふく病

おとと保心宗師
もくは保心のみまふく病

おとと保心宗師
もくは保心のみまふく病

おとと保心宗師
もくは保心のみまふく病

おとと保心宗師
もくは保心のみまふく病

おとと保心宗師
もくは保心のみまふく病

おとと保心宗師
もくは保心のみまふく病

後方律宗のわらわらひまが
了須を行くも分るる

礼山 夢後六つ礼中長信
終率一に禮に摩本の摩

白雲 志主に南東遠北
後女雜禮に島と境

是と禮意の礼も各は
又は余集有る律宗

礼も一送 一の礼だ
意存く内典不典と様を

礼堂の法部 集りては
この禮儀と礼ウは

この禮儀の 一の中
一の禮をそとあるが

真の禮堂 とも集部
法儀の寸と入集

是のちの 礼と
礼も各は 禮を

是と 仲の 因
直と 善後

禮の 礼と
礼と 礼と

礼も 礼と
礼と 礼と

継い...
...
...
...
...

ね...
...
...
...
...

安女...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

不
大
寺

村...
...
...
...
...

楠...
...
...
...
...

村...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

深...
...
...
...
...

長...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

しとく村と削りぬはと

深山乃熟朽なるに

長殿乃御家

さよはひとらどわか

果くは皆人知れに残る

はふまことは穿よこの井戸

もふ残る程はよふに中一

おろくもまこと長殿をかぞし

おろくもらとよ

若くは民の長きんば人は

毎日此後へと後ちよは

ふりま同か度りも一毒

付もるともよ

長殿乃謎く終る

宝雲層唐衣冬傳成道日

仙羅羅樹下老翁書



俊彌

